

歴史探訪

クラブ

其の105
History Inquiry Club



文化財課 ☎23局3635
FAX 22局3811

ローラースケートの時代

あるお宅で、昭和40年代に大流行したローラースケートを見つけた。このローラースケートは、一般に普及していたもので、金属製のフレームの靴底に4個の車輪がつき、靴をはいたままベルトで締めるものです。足の大きさはベルトで調整できます。現在、主流の車輪を縦一列に並べたインラインスケートと呼ばれるシューズとは、ずいぶん違います。ローラースケートの流行は、アメリカで始まった*「ローラーゲー



▲ローラースケート (昭和40年代前半)

ム」と呼ばれる競技が、昭和43年にテレビ放送されるようになったことがきっかけです。昭和47年には「日米対抗ローラーゲーム」という番組がテレビで毎週放送され、さらに大流行となりました。子どもたちはスケート靴を履き、舗装されたはじめた道路で遊ぶようになりました。昭和30年代後半から40年代前半には、交通量が増え交通事故が社会問題化しました。そのため、歩道や横断歩道橋の整備が始まり、子どもを対象にした交通安全教室が行われ、広報の記事にも大きく交通安全の記事が取り上げられるようになりました。車と人間との安全に対する考えが劇的に変化した時代です。昔から



▲田原町巴江にあった町営ローラースケート場のようす (広報たはら昭和45年10月号掲載)

子どもの遊び場だった道路は、道路交通法で規制された場所であり、ましてや足元の安定しないローラースケートで遊ぶことは危険このうえありません。当時は、子どもの安全と遊び場の確保を考え、西部児童館では、遊戯室を改築しローラースケートができるような工夫をしました。また、昭和45年9月には田原町営のローラースケート場が整備されました。この時代に特定の遊び専用施設が整備されたということは、いかにローラースケートが流行していたかがわかります。ローラースケート場まで通えない子どもたちは、竣工前の車が通っていない道路で、こっ

そり楽しんでいた場合もあるようです。しかし、ローラースケートのブームはまもなく過ぎ去りました。スケート場は、閉鎖され駐車場となり、現在はコンビニエンスストアが営業しています。

このローラースケートに接して、いまや忘れ去られたローラースケートブームを思い出しました。ローラースケートが起こした社会現象は、交通安全の意識向上にも影響したに違いありません。

(増山)

今月の「表紙」

▼街なかで赤色や緑色などで彩られる華やか季節。「年末年始は予定がいっぱい」という方も多いと思います。慌ただしい年末を乗り切り、新しい年を元気に迎えたいものです。インフルエンザや風邪などをひかないために、毎日きちんと予防策。外から帰ったら、うがいと手洗いを忘れずに。(O)

〔表紙の写真〕ポインセチアの出荷風景(小塩津町)